Wakayama University Tourism Update

Semiannual Newsletter of Tourism Education & Practice

WTU　Autumn/Winter 2021

画像は、いずれも 2021 年 4 月～ 11 月に観光学部 HP に掲載したニュース記事より

Contents　－目次－

1. Reports　－和歌山大学観光学部生の国際 / 地域活動報告－
2. Topics　－過去のイベントとニュース－
3. Future Events　－今後のイベント紹介－

■ 国際学術誌 Tourism Planning & Development での研究論文発表

山岸　大二郎さん（大学院博士前期課程 11 期生／石川県立金沢商業高等学校、和歌山大学観光学部（10 期生）出身）

Routledge

Development of a Tax-Free Shopping Environment in Japan: An Analysis of Its Representations in a Financial Newspaper

Daijiro Yamagishi[a] and Hayato Nagai[b]

[a]Graduate School of Tourism, Wakayama University, Wakayama, Japan; [b]Faculty of Tourism, Wakayama University, Wakayama, Japan

ABSTRACT

Tax-free shopping is recognised as an important component of international travel experience, but the investigation of this topic remains limited. This study aims to extend the understanding of the tax-free shopping phenomenon, especially its historical development in Japan through investigating how the topic of tax-free shopping has been viewed and discussed in Japan. To achieve this aim, 549 newspaper articles containing the term menzei (Japanese for "tax exemption") from a major financial newspaper were collected and analysed. The results revealed that the term menzei was differently represented in a financial newspaper before and after the national government introduced major inbound tourism development strategies in the early 2000s, indicating that the public interest in the tax-free shopping phenomenon increased as inbound tourism developed. The findings of this study are expected to serve as important foundational knowledge and to encourage future research on this topic.

KEYWORDS

Japan; newspaper articles; tax-free shopping; text mining

この度、私が書いた卒業論文に修正・加筆を加えたものが国際学術誌 “Tourism Planning & Development ” に掲載されました。観光学部三年時から永井ゼミに所属し、卒業論文を国際学術誌に掲載させることを目標に掲げて研究活動に取り組んだ結果、このような国際的にも評価されている学術誌（Scopus データに基づいたジャーナル評価指標 3.7：2020 年）に掲載され、大変うれしく思います。

入学当初、自分が英語で卒業論文を書き、国際学術誌に掲載されることになるとは考えてもいませんでした。観光学部の充実したカリキュラムに加え、英語で学習することへの手厚いサポートもあり、英語力の向上だけでなく、Asia Pacific CHRIE 2020 Hong Kong など国際学会の舞台で発表する力を身に着けることができました。また、国際的に観光学というフィールドで活躍する研究者の方々との交流により、観光学の最先端を常に意識するようになりました。加えて、研究論文を書くことへのモチベーションを高く保つことにもつながったと思います。

私は、英語で学術論文を書くことを通して、より多くの情報を獲得することが可能になったと強く感じています。現在、英語で出版されている学術誌は、日本語ものと比較しても、圧倒的に「量」が多く、より幅広い観光学につながる知識の構築が行われてきていると言えるでしょう。国際学術誌に論文を掲載するためには、過去の研究の中からリサーチギャップを見出すことがとても重要です。そのため、自分の研究テーマに関連するトピックにおいて、これまでどういった議論がなされ、今後どういった研究が求められているのか把握するためには、英語論文を読み込むことしか方法はありません。一方、学術雑誌のデータベース化が一般的になった現在、データベース上に膨大な量の論文が溢れています。卒業論文の先行研究レビューにおいて、読む力に加えて、適切かつ有力な情報（学術論文）を見つける力も身に着けることができたと思います。

卒業論文の作成・研究論文の発表を通して、今後研究を進める上での基礎を築くことができました。今後、多くの学生が卒業論文を学内にとどめるのではなく、学外の国際舞台で発表するようになれば（もちろん、楽しんで卒業研究に取り組むことが最も大切ですが）うれしいです。現在は観光学研究科博士前期課程に進学し、修士論文の作成に取り掛かっています。さらに質の高い論文が書けるよう、研究スキルの向上に励みたいです。

- Yamagishi, D., & Nagai, H. (2021). Development of a tax-free shopping environment in Japan: An analysis of its representations in a financial newspaper. Tourism Planning & Development, Advanced online publication. https://doi.org/10.1080/21568316.2021.1953122
- Scopus 収録誌詳細 “Tourism Planning and Development” https://www.scopus.com/sourceid/19900191973
- 観光学部 HP 掲載ニュース記事 http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2021073000146/

■ TOURISM CAFE「留学経験発表会 003」@Zoom

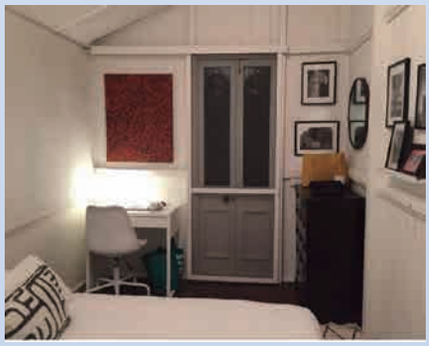
石野　美和さん（12 期生／大阪府立岸和田高等学校出身）

私は『留学経験発表会』に参加し、カナダとオーストラリアでの留学経験をお話ししました。この発表会は 2021 年 7 月 12 日の 19 ～ 20 時半に Zoom で実施され、留学に関心がある観光学部生を対象に、留学経験のある観光学部生 3 名が発表しました。発表を通して当時の経験や考えを振返ることは、自身の英語学習の更なる意欲向上や新たな挑戦に繋げられると考えました。また留学経験を共有することで、コロナ禍の今、後輩達が日本にいながらも英語や海外に対する関心や意欲を持ち続けることを後押しできると考え発表しました。

発表では、私が 1，2 年次に参加した学部主催の海外研修、『カナダ GIP』と『オーストラリア GIP』の経験について話しました。動機や費用、ホストファミリーとの思い出、留学後の取り組み等について 20 分間に渡って話しました。今回の発表においてこだわった点は、写真の共有と、GIP に

参加するまでの間に国内でできる取組みの提案です。現地の情景が伝わるよう部屋や食事、学校、街の様子等 60 枚の写真を示しました。また英語レシピで海外の伝統菓子を作る事や、TOEIC 勉強において日常で使えるフレーズを習得する事など、国内でもできる取組みを紹介しました。発表後は多くの質問を頂きました。例えば、現地での体調管理で気を付けていたことは？という質問に対し、「短期留学は 1 日 1 日が貴重なので、体調が悪くなりそうな行動は控えていた。現地で牡蠣が有名だったが食中毒の恐れがあるので差控えた。」と答えました。発表会は終始カジュアルな雰囲気で発表者・参加者ともにリラックスでき、ざっくばらんな質疑応答ができました。その結果、アンケートで参加者全員から高評価を頂きました。自由記述欄では、「最近は怠惰に過ごしていたが今やれることをやりたい」「発表やスライドが分かりやすく色々な情報を得られた」等の感想を頂き、参加者の意欲向上や情報収集の役に立てたと感じました。私自身も今回の発表を通して、研修での体験を振り返りながら英語で会話する楽しさを改めて思い出し、そのことがモチベーションとなって、以前に増して TOEIC や英会話に力を入れて取り組んでいます。更に、今秋から和歌山県主催の『高野・熊野地域通訳案内士』の資格研修を受講するという新たな取組みも始めました。このように留学経験発表会を通じて、発表者・参加者共に新たな発見や挑戦ができたと思います。今後も自身の経験を共有し、自己成長や周囲への貢献に繋げたいです。

最後になりましたが、このような機会を設けて頂いた観光実践教育サポートオフィス、そして参加してくださった学部生の皆様に心より感謝申し上げます。



■ 観光学術学会第 10 回大会 学生ポスターセッション優秀作品賞を受賞して
地域インターンシッププログラム Local Internship Program（LIP）
「道の駅「ねごろ歴史の丘」利用者調査及び利用促進企画」（和歌山県岩出市）

宮井　凜晴さん（14 期生／和歌山県立新宮高等学校出身）
大山　梨央さん（14 期生／和歌山県立那賀高等学校出身）
五味　晴香さん（14 期生／大阪府立岸和田高等学校出身）
杉本　情さん（14 期生／神奈川県立茅ケ崎北陵高等学校出身）
諏訪　葉瑠奈さん（14 期生／和歌山県立粉河高等学校出身）

私たちは、7 月 3 日、4 日にオンラインにて開催された観光学術学会に、岩出 LIP としてポスター発表を行いました。全国から約 20 団体が参加した中で、優秀賞を獲得することが出来ました。(最優秀賞 1 団体、優秀賞 2 団体)

昨年行った LIP の活動は、全てオンラインで行い、道の駅「ねごろ歴史の丘」に関連した Instagram の投稿の分析を行いました。そんな中で、分析結果をしっかりまとめてみてはどうかという、永井先生の提案により、現 2 回生の 5 人で挑戦しました。学会発表の準備をする会議も主にオンラインで行い、初めのうちはメンバー同士がよそよそしく、なかなか進まないこともありましたが、会議を重ねるうちに、議論が活発になっていったのを覚えています。また、ポスター発表のコンテンツも、Instagram という私たちにとって身近なものであり、それを分析し学術的にまとめるという作業が非常に面白かったです。また、メンバー全員が学会発表は初めてで、ポスター製作に慣れていなかったので、岩出 LIP に所属していた先輩が過去に発表したポスターなどを参考にしつつ製作しました。学会発表本番においても、ほとんどの参加者が上回生という環境で非常に緊張しました。しかし、2 年生のうちにこういった経験をできたことを誇らしく思います。

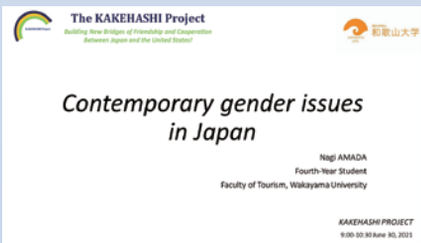
学会発表の経験をもとに、現在の LIP の活動においても、自然と学術的な方面から考えるようになっています。LIP の活動だけではなく、メンバー個人の研究においても、今後役立つだろうと思います。

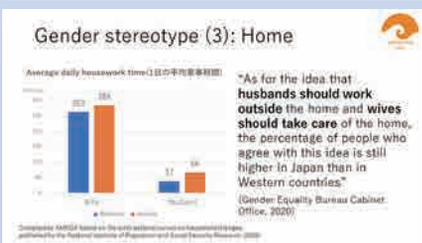
最後にはなりましたが、学会発表に向けてポスター製作にあたって、永井先生より大変手厚いご指導をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

観光学部 HP 掲載ニュース記事　http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2021090200017/

■ KAKEHASHI PROJECT を通じて学んだこと

天田　南葵さん（12 期生／徳島県立城南高等学校出身）





私が参加した KAKEHASHI Project は，日本・アメリカ両国の大学生の相互理解を深めることを目的とした交流プログラムです。新型コロナウイルス感染症の影響もあり，今年はオンラインでの開催でした。プレセッションおよびプログラム当日の流れは以下の通りです。

▼交流プログラム参加者のためのプレセッション　6 月 23 日（水）9:10 ～ 10:40
- プログラムの趣旨について説明
- ディスカッションテーマについての予習

▼オンライン交流プログラム　6 月 30 日（水）　9:00 ～ 10:45
- プレゼンテーション
- 自己紹介
- ディスカッション（テーマ：ダイバーシティー）
- フリー交流タイム

私は，プログラム当日，近年の日本のジェンダー問題についてプレゼンテーションを行いました。日本は男女共同参画がある程度進んでいるものの，他国に比べてまだまだ遅れています。世界経済フォーラムが公表した「ジェンダー・ギャップ指数 2021」では，日本は 120 位であり，女性の経済参加と機会の面でのギャップ解消はほとんど進んでいません。また，日本の上級職や指導的立場にある女性の割合は 14.7％にとどまっているのが現状です。加えて，日本の国政では，性的指向や性自認を理由とした差別禁止法はまだ制定されておらず，同性間の結婚も合法化されていません。こうした問題の背景には，ジェンダーの固定観念や制度上の差別があります。

グループディスカッションでは，日本とアメリカ，それぞれの人種・ジェンダー問題について話し合いました。最も印象に残っているのは，日系アメリカ人大学生の”What is your identity?（あなたのアイデンティティは？）”という質問に答えられなかったことです。これを読むみなさんも，自分のアイデンティティについてぜひ考えてみてください。

私は英語に苦手意識があり，人種やジェンダーの問題に強く関心があるものの，当初はこのプロジェクトに参加しない予定でした。しかし，英語が得意であっても，そうでなくても，学びの機会は平等にあります。私のように「英語が苦手だ」という人にも，ぜひこれから興味や関心のあることに挑戦してほしいです。プログラムへの参加を通じて，和歌山大学観光学部の良いところは，教職員の方々や周りの学生のサポートを受けられることだと，改めて感じました。

最後に，プレゼンテーションに関しお力添えいただいた吉田道代先生や Adam Doering 先生，このプログラムを実施する上で尽力していただいたすべての教職員の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

➔ 観光学部 HP 掲載ニュース記事　https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2021071400023/

■ PATA 和歌山大学学生支部「星野リゾートホテル講演会」

中野　蒼彩さん（14 期生／鹿児島市立鹿児島玉龍高等学校出身）

はじめに、PATA 和歌山大学学生支部とは学生が主体となり、観光について学びを深めている団体です。今年度前期は外資系ホテルと日本国内 ホテルについて勉強会を開き、その一環として 2021 年 5 月と 6 月、現在ホテルに勤務されている本学部の卒業生をお招きし、Zoom にて講演会を主催・運営しました。

5 月の講演会は株式会社星野リゾート (以下星野リゾート)　リゾナーレ那須で広報を担当されている卒業生にお話しいただきました。星野リゾートは 100 年以上の歴史を持つホテルグループで、特徴的な運営体制です。一般的なホテルはフロント業務や清掃業務などそれぞれの業務を専門に取り組みます。一方、星野リゾートの施設の従業員はフロントも清掃もレストランもすべての業務に取り組む「マルチタスク」と呼ばれる方式を採用しています。「マルチタスク」という言葉はあまり聞きなれない人が多いのではないでしょうか。私も星野リゾートのことを調べ始めるまでは聞いたことがなく、実際のイメージもあまり想像がつかなかったです。しかし実際に現場でマルチタスク

に取り組んでいた話を聞くことにより、メリット・デメリットを考え比較することができました。将来、就職先を決める際に自分がどのような働き方をしたいのか考えるきっかけになったかと思います。また、広報業務やコロナ禍の取り組みについて詳しくお話いただきました。星野リゾートはコロナ禍の取り組みやマイクロツーリズムについて、先進的に取り組んでいます。未知のウイルスによって混乱に陥った中で、それでも新たな施設の開業や新たな観光の在り方に注目する星野リゾートが何を思って取り組んでいるのか。とても気になっていたことでありコロナ禍でも観光・宿泊を楽しんでもらいたいという星野リゾートの想いを感じることができました。また、特に現場で働く人だからこそ感じたことについて雑誌やインターネットの記事等で知ることのできない深い部分まで伺うことができ、とても貴重なお話を聞くことができました。

6月の講演会は、卒業後星野リゾートに就職され、現在 THE HIRAMATSU 軽井沢 御代田の従業員である卒業生にお話をしていただきました。星野リゾートを外からの視点でお話して頂きました。5月の講演会とは違う視点から星野リゾートを見つめ直したことで、より考えを深めることが出来ました。また富裕層への宿泊施設の在り方をお話しいただき、日本国内の宿泊施設と外資系ホテルの違いを改めて考えるきっかけになりました。

今回の講演会シリーズの運営にあたり、講演者に渡す企画書や日程・内容の打ち合わせ、参加学生への周知、当日の司会・運営を実際にし、メールでのやり取り、企画書の作成等に実際に取り組みました。就職してから経験するものだと思っていたことを実際に大学生のうちに経験できたことは非常に貴重だったと感じています。また講演会やイベントの運営側に自分が実際に立ったことで参加者に何を求めているかを知ることができ、以来イベントや講演会に参加する際は運営側が参加者にしてほしいことを考えて参加するようにしています。

講演会を運営するにあたって前例を知らない中、慣れない作業で苦労も多かったのですが、PATA の先輩方の助けのおかげで講演会を実施することができました。貴重な機会を譲って与えてくださり、何度も遅い時間まで打ち合わせに付き合ってくださった先輩方には感謝しています。

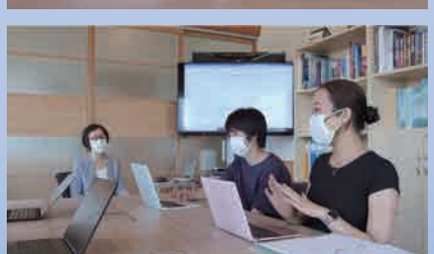
最後にホテル講演会の開催にあたり観光実践教育サポートオフィスにご協力いただきました。この場を借りてお礼とさせていただきます。本当にありがとうございました。

■ 東ゼミに所属して

鎌田　楓佳さん（13 期生／賢明学院高等学校（大阪府）出身）
宮田　果奈さん（13 期生／大阪府立和泉高等学校出身）
吉田　海七さん（13 期生／大阪府立住吉高等学校出身）
西門　一宰さん（13 期生／和歌山県立向陽高等学校出身）

私たち東ゼミ（３年生）では毎週ブックレビュー、ニュース紹介、英文講読を行っています。ブックレビューでは、私たちが個々に関心のある分野の本を読み、それらを１０００字程度にまとめて発表しています。そしてそれに対する意見を述べたり質問をしたりして、その本への理解を深めています。近年、若者の読書離れが取り沙汰されるなか、私たちも普段は自主的に本を読むことのない生活を送っていました。しかし今では自然と本を手にとって読む時間が増えました。直近のブックレビューでは『炎上しない企業情報発信』(2018 年 日本経済新聞出版社) が取り上げられました。一昔前までは問題視されることがなかった発言が、近年では炎上に繋がりかねないようになり、今の時代の難しさを感じます。

ニュース紹介では国内外を問わず世間の関心を集めたニュースを取り上げ、それについてディスカッションを行います。直近では日本の水際対策についての紹介がありました。コロナウイルスが世界に広がりを見せて以降、日本の国境は閉ざされ続けています。一方で今夏は観光など渡航の目的を問わず、国境を開放している国もありました。ここでは日本と他国とのコロナウイルスの捉え方の違いや、ワクチンパスポートにおける観光業回復の兆し、またそれに対する人種差別の懸念などがディスカッションの中心となりました。ゼミに所属して間もない頃に比べて、今では他人の意見に左右されずにきちんと自身の意見を述べられるようになってきています。



（次ページへつづく）

最後に英文講読についてです。英文講読では東先生が用意してくださる洋書の中から、皆で１冊を選定し読み進めます。今学期は東先生の研究分野でもあるハワイ移民に関する本を読んでいます。今でこそ観光地として有名なハワイですが、戦前は多くの日本人が移民として渡った過去があり、移民した方々は日本人らしさを忘れずに強く生きていたことを学びました。

移民の研究では、実際に日系移民としてのアイデンティティーを持つ人達との交流も定期的に行っています。前回の交流では日系ブラジル人の方とオンライン上で、お互いの国での生活について話し合いました。そのときに二世や三世世代になるにつれて、日本語力の維持と日本文化の継承の難しさがあることを実感しました。

私たちのゼミは、個々に関心のある分野を深められる環境のように思います。興味を持ったことには自分が納得するまで学ぶことができるので、いつも楽しみながら活動に取り組んでいます。少しでも興味のある方は是非一度遊びに来てください。

観光学部 HP 掲載　関連ニュース記事　http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2021102200080/

■ 正解のない問いに対して協働して解を出していくこと

（和歌山大学経済学部柑芦会誌『柑蘆』第 52 号（2021 年版）　特集：「コロナ禍下における現状と今後」寄稿文）

戸髙　英里子さん（12 期生／延岡学園高等学校（宮崎県）出身）

地方の過疎化、少子高齢化、循環型社会、環境問題、個人解決型社会…。

現代社会が直面している課題は本当に多くあります。そのような世の中で、大学生の私が本気で取り組んでいる活動があります。

それは、「むすび屋弥右ヱ門 茅葺きプロジェクト」です。

人と人との繋がり“結（ゆい）”をモットーに、和歌山県かつらぎ町志賀地区に残る 24 軒のトタン被せの茅葺きの民家に着目し、茅葺きの魅力を活かして若者の地域への移住を促します。その第一歩として、地域の魅力を発信する「茅葺きのおむすび屋」をクラウドファンディングで作るというプロジェクトです。

これは、2017 年に和歌山大学の「わかやま未来学副専攻」というプログラムで立ち上がりました。関西空港から車で 1 時間圏内の高野山に麓に位置する志賀地区。日本の多くの地域と同様に、志賀地区も人口減少、少子高齢化の一途をたどっています。学生活動を応援し、温かく迎え入れてくださる志賀地区をこれからも存続させたい―そのための鍵が、トタン被せの茅葺き民家だと私たちは考えています。

どうして私たちがそこまで茅葺にこだわるのでしょうか。理由は、茅葺きは一人ではできず、多くの人の協力があって初めて成り立つものだからです。情報が目まぐるしく飛び交い、スマートフォン一つあれば、誰かと協力しなくても、簡単に解決できてしまうような個人解決型社会が広がるこの時代だからこそ、そして、プロジェクト発足時には想定し得なかったことですが、新型コロナウイルス感染拡大によって「人と人の密接な関係が少なくなる」という現代だからこそ、私たちは茅葺が持つ“結”の可能性を信じているのです。

私はこのプロジェクトに参加して３年目になりますが、これまで本当に多くの方と出会い、ご縁を結んできました。孫のように私たちを受け入れてくださる志賀地区の皆さん、茅刈りや茅葺を一から教えてくださった茅葺職人さん、茅刈りをさせてくださっている生石高原の皆さん、取り組みを取材してくださった記者の方、卒業しても手伝ってくださる先輩方、プロジェクトメンバー外の協力してくれる和大生など、ここにはまだまだ書ききれないほど沢山の方々に応援していただき、協力し合いながら進めています。

「社会人になりたくない」と周りの友人達は口にしますが、私はこのプロジェクトを通して、学生の本気を応援し、それをバックアップしてくださる大人の背中を３年間見てきました。だからこそ、このプロジェクトを通して出会った、正解のない問いに対して協働して解を出してくださる方々のように、これからの世の中に新しい価値や考え方を提案し、負の連鎖を断ち切ることを『提供していく』立場として社会に出ることが楽しみでなりません。

コロナ後は、ものすごいスピードで情勢が変化していくと思いますが、私は、「人と人が協力し合う」という人間の営みの根本を忘れなければ、未来は明るいと信じています。

（和歌山大学経済学部柑芦会誌『柑蘆』第 52 号（2021 年版）　特集：「コロナ禍下における現状と今後」より再掲）

Topics　－過去のイベントとニュース－

■「Young Talent Programme 2020/21（World Tourism Forum Lucerne）」の最終審査に進出！

（Andermatt, Switzerland）

観光学部 4 年生・森田 光さん（12 期生）が、2021 年 11 月 15 日（月）～ 16 日（火）にかけてスイス・アンダーマットで開催されている World Tourism Forum Lucerne 2021 の Young Talent Programme2020/21 に出場しています。

1 年間かけて審査プロセスを経た後、世界から選出された 12 名のファイナリストの 1 名としてスイスに招待されました。

スイス渡航前の 11 月 10 日（水）には、観光学部で壮行会が開かれ、先生方から激励のメッセージが伝えられた他、最終審査で実施予定の 4 分間プレゼンテーションを披露いただき、集まった学部生らと意見交換をしました。

森田さんは、地域インターンシッププログラム（Local Internship Program(LIP)）での経験を基に、「なぜ日本のグリーン・ツーリズムが観光学部生の学びに適しているか」というテーマで発表します。

● World Tourism Forum Lucerne (WTFL) とは

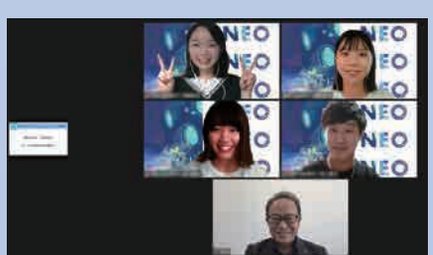
WTFL は、2009 年に、スイス・ルッツェルンでスタートした観光フォーラム。各国の政府、民間企業、大学 / 研究機関、経済界の関係者が集結し、各業界の決定権を持つ幹部 (大臣や CEOs)、次世代を担う若手 (Young Generations)、将来を担う学生 (Young Talents) が『旅行・観光産業の持続可能な将来』を共に構想し合う機会をもつため、二年に一度開催される。前回 2019 年フォーラムには、世界 80 ヶ国から約 550 人のゲストが参加。

● Young Talent Programme (YTP) とは

世界中で観光学を研究・教育している著名な大学、約 30 校が WTFL の「パートナー大学（Partner Universities）」として連携しており、YTP では、それらの大学に所属する学生が「これからの観光を考える」目的で実施されている。日本からのパートナー大学は和歌山大学観光学部のみ。YTP は 4 部門に分かれており「Talent」、「Innovation」、「Diversity」、「Sustainable Development」のいずれかのテーマで「現在どのような問題があって、その問題についてどのような解決策が提案できるのか」を学生が発表。初回の応募から 1 年以上かけて 4 段階の審査が進行。最終審査に選出されたファイナリスト 12 名は無料でスイスに招待され、他のファイナリストと交流する他、世界の観光関係者とのネットワーキングも行う。

➔ 観光学部 HP 掲載ニュース記事　http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2021111500140/

■ S カレ（Student Innovation College）2021：「SDGs 旅行商品」コンセプト・テーマ 1 位を受賞しました



S カレ（Student Innovation College）2021 は、25 大学 28 ゼミ 396 名の 3 年生が、ゼミ対抗で、8 テーマの商品企画を Facebook で公開し「いいね！」で支持を集め、コメントで改善し、発売を目指していく、学生のインターカレッジです。

2021 年 10 月 3 日（日）にオンラインで開催された秋カンファレンス（秋カン）において、観光学部佐野ゼミの塩路彩乃さん、齊藤彩花さん、谷口紗彩さんと尾上雄介さん（いずれも 3 年生）が企画した旅行商品「神秘なる海とダンジョンに眠る銀のクラゲ ー SDGs 謎解きゲーム in 白浜」が、株式会社日本旅行の「SDGs 旅行商品」のテーマで、コンセプト 1 位を受賞しました。

次は、12 月 12 日（日）のオンライン「冬カン」で商品化権を最終プランで競い合い、さらには翌年の秋カンで発売実績にもとづいて総合優勝を争うという具合に、まだまだ活動は続きます。引き続き応援よろしくお願いします！

➔ 観光学部 HP 掲載ニュース記事
http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2021101900028/

■ グローバル・プログラム（GP）: Global Seminar Ⅱ - Interim English Presentations を実施しました

2021 年 10 月 15 日（金）、グローバル・プログラム（GP）の「Global Seminar-II 追加演習」（担当：アダム・ドーリング教員）を履修している学生 9 名の中間発表会を実施いたしました。

今回発表した学生は、それぞれのゼミ演習を通じて Dissertation（英語で執筆する卒業論文）の作成に取り組んでおり、今回の Interim English Presentations では、お互いの研究テーマについて意見交換を行いました。

➔ 観光学部 HP 掲載ニュース記事
http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2021102900041/

■ Green Destinations TOP100 評価員を務めました

Green Destinations はオランダを拠点とする GSTC の認証機関の一つで、毎年 Sustainable Destination TOP100 を認定しています。TOP100 には GD 指標の 15 項目を満たし、サステナビリティの良い事例（ストーリー）を示すことでノミネートされます（ランキングやアワードではありません）。

大学院観光学研究科博士前期課程の院生 5 名（磯田　悠、関戸麻友、澤田幸輝、寺澤舞花、李　瑾（いずれも M1））が、公募を経て、今年 6 月からの研修や担当者とのミーティングに参加したうえで、エントリーの評価員（条件を満たしているか、ストーリー性があるかなどのチェック、評価等）を務めました。

この度、2021 年 9 月 1 日付で Green Destinations Foundation より Certificate が授与され、10 月 4 日～ 7 日にかけてオンラインで開催される 2021 年の Green Destinations Summit（Global Green Destinations Days 2021）にも招待されています。同 Summit では、10 月 5 日に TOP100 の表彰式が行われます。

本学部・研究科では、地域活動での経験を活かして GSTC など持続可能な観光地評価に携わる等、このような国際認証に関わる機会を今後も継続できるよう、連携していきたいと考えています。

➔ 観光学部 HP 掲載ニュース記事　http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2021091300013/

Future Events　－今後のイベント紹介－

■「2021 年度 和歌山大学『観光・地域づくり』講座 @Zoom」のご案内

本講座は、観光地や観光ビジネスにおいて高く評価されているキーパーソンを講師に招へいします。各方面で活躍されている方々のユニークな着眼点やリーダーシップを発揮しての事業の推進、異業種を巻き込んでのコンセンサスの形成方法など、さまざまな観点からの実践事例を拝聴するなかで、和歌山県をはじめとする地域の観光振興とまちづくりの方向性を探ります。

なお、本講座は 2008 年度から 2019 年度まで開講してまいりました「観光カリスマ講座」を受け継ぎ、2020 年度より「和歌山大学『観光・地域づくり』講座」として開講しています。また、本講座は 観光庁「中核人材育成講座」公認プログラムです。

2021 年度は、Zoom のウェビナー機能を利用したオンライン公開講座（ライブ配信）となっており、既に第 1 回～第 4 回は終了していますが、最終回となる第 5 回は 12 月 9 日（木）に行われます。更井亮介 氏（レストランキャラバンサライ　オーナーシェフ）を講師にお招きし、「空レストランが地域を変える！食育活動とローカル・ガストロノミー」と題して開催されます。参加申込は現在も受付中です。皆さまの聴講をお待ちしております。

➔ プログラムや参加申込方法などは、観光学部 HP 掲載ニュース記事をご覧ください。
http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2021090700029/

編集・発行　（2021 年 11 月発行）
和歌山大学 観光学部 観光実践教育サポートオフィス
〒640-8510　和歌山市栄谷 930　和歌山大学西 4 号館 K216 室、K116 室
TEL　073-457-8553　／　E-mail　tourism-er@ml.wakayama-u.ac.jp　／　URL　http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/